

2018年8月18日

2019年度

大学院経営管理研究科 経営管理専攻

修士課程 入学試験

(研究者養成コース 一般選考・外国人特別選考)

【専門論述試験問題】

解答上の注意

- ・ 以下の1～5の問題のうち1題を選択し、日本語で解答すること。なお、希望指導教員の専門分野に拘らず、どの1題を選んでもよい。
- ・ 1題が複数問で構成されている場合は、それを構成する全ての問題に解答しなければならない。
- ・ 解答用紙の問題番号選択欄では、選択した問題番号に○をすること。
- ・ 解答用紙は1枚とする。ただし、裏面も使用できる。
- ・ 解答は、横書きにすること。

【経営講座】

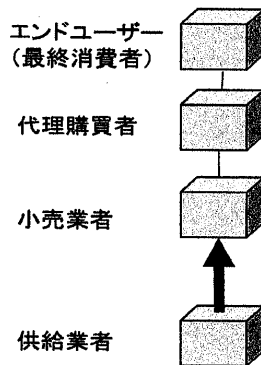
1. 市場と組織について以下の全ての問いに答えなさい。

- (1) 取引費用の概念を説明した上で、企業にとって、市場を介して取引を行うことと、組織の内部で取引を行うことのメリットとデメリットをそれぞれ説明しなさい。
- (2) 取引費用を低下させたと思われる制度あるいは企業の事例を具体的に挙げて説明しなさい。また、そこでの企業の垂直統合の程度への影響についても説明しなさい。
- (3) 市場と組織の中間的な形態の組織について具体的な例を挙げて説明しなさい。また、中間的な形態の組織はどのような場合に特に有効になるのかについて説明しなさい。

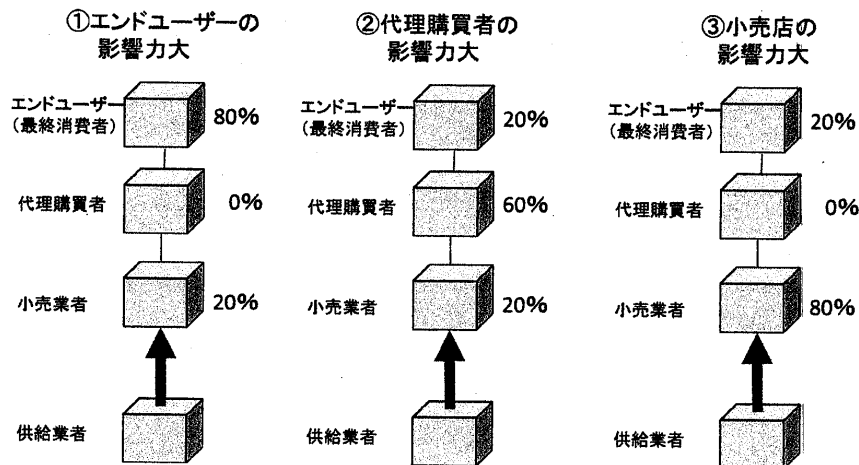
[マーケティング講座]

2. 購買の意思決定に関する以下の全ての問いに答えなさい。

購買の意思決定には、様々な主体が影響を及ぼしている。製品カテゴリーや、購買行動の違いにより、購買の意思決定に及ぼす様々な主体の影響力の大きさは異なる。ここでは、単純化のため、エンドユーザー（最終消費者）、代理購買者、小売業者の3者が、購買の意思決定に影響を及ぼしている例を想定しよう。特に、エンドユーザー（最終消費者）の代わりに、代理購買者が購買を行う場合について考える。例えば、子供が使用する財・サービスに関して、親が子供の代わりに購買を行う状況が該当する。



- (1) 購買の意思決定に及ぼす各主体の影響力の配分の違いを生み出す要因にはどのようなものがあるか。複数の要因を挙げて説明しなさい。
- (2) 以下には、意思決定の配分の例として3つのパターン(①②③)が示されている。図中の数字(パーセント)は、購買の意思決定に及ぼす各主体の影響力の比率を示したものである。



A 3つのパターンに該当する現象にはどのような例が考えられるか、①②③それぞれについて説明しなさい。

B ①②③について挙げた各例において、供給業者のマーケティング戦略の主眼は何になるか。また、どのような、マーケティング・ミックスを展開すべきか、説明しなさい。

【会計講座】

3. 企業会計原則の一般原則の中に、継続性の原則がある。継続性の原則に関する以下の全ての問いに答えなさい。

(1) 継続性の原則とは何か、説明しなさい。

(2) 企業会計において継続性が重視される理由を説明しなさい。

(3) 企業経営者は、どのような場合に会計処理の原則や手続きを変更しようとする動機を持つか、また、その動機を達成するために、具体的にどのような会計処理の原則や手続きが変更されると思うか、あなたの考えを述べなさい。

【金融講座】

4. 以下の全ての問いに答えなさい。

(1) 最適資本構成に関して、モジリアーニ＝ミラーの第一命題の内容を説明しなさい。また、その後の理論的展開（進展）について、その概要を上記の命題との関係を明示しながら論じなさい。

(2) 平均・分散アプローチに基づく最適なポートフォリオ選択の理論について、その概略を説明しなさい。その際、ポートフォリオの分離定理が成立するメカニズムについて分かりやすく説明しなさい（なお、説明の仕方について、数理モデルに基づく説明でも良いし、図示しながら経済学的論理に基づき説明するのも良い）。

(3) 次の各用語についてそれぞれ簡単に説明しなさい。

- ① ヨーロピアン・コール・オプション
- ② 効率的市場仮説
- ③ 「バーゼル合意」に基づく自己資本比率規制

【共通基礎問題】

5. 以下の全ての問いに答えなさい。計算問題に関しては計算過程も示しなさい。

(1) ある工場で生産された種類の部品を 16 個、無作為に選んだところ、選んだ部品の重さの平均が 9.15 g、選んだ 16 個の部品の不偏分散から求めた標準偏差が 2 g であった。生産者は「この部品の平均の重さは一つあたり 10g である」と主張している。以下の問いに答えなさい。

- ① この部品の重さの標準偏差が 2 g であるとわかっているとき、生産者の主張が正しいかどうか、有意水準 10% で検定しなさい。
- ② この部品の重さの標準偏差が未知のとき、生産者の主張が正しいかどうか、有意水準 10% で検定しなさい。

なお、母集団としては正規母集団を仮定し、必要であれば以下の数値を用いなさい。

標準正規分布の上側 10% 点=1.282、上側 5% 点=1.645

自由度 15 の t 分布の上側 10% 点=1.341、上側 5% 点=1.753

自由度 16 の t 分布の上側 10% 点=1.337、上側 5% 点=1.746

自由度 17 の t 分布の上側 10% 点=1.333、上側 5% 点=1.740

$\sqrt{2} = 1.414$ 、 $\sqrt{3} = 1.732$ 、 $\sqrt{5} = 2.236$

(2) 確率変数 X と Y は互いに独立に区間 $[0,1]$ 上の一様分布 $U[0,1]$ に従うものとする。以下の問いに答えなさい。

- ① $Y \geq X^2$ となる確率を求めなさい。
- ② $\max(X, Y)$ の期待値を求めなさい。
- ③ $\min(X, Y)$ と $\max(X, Y)$ の相関係数を求めなさい。

(3) 次の①から④のそれぞれについて、正しいならば理由を述べ、正しくないならば反例をあげなさい。

- ① 有限個の値からなるデータについて、平均値は常に偏差の絶対値の和を最小化する。
- ② 確率変数 X と Y の相関係数が 0 のとき、 X と Y は互いに独立である。
- ③ 確率変数 X と Y が互いに独立かつ正規分布に従うとき、 X と Y の分散が異なっても $X+Y$ は正規分布に従う。
- ④ ある帰無仮説を有意水準 90% で棄却できるなら、有意水準 95% でも必ず棄却できる。